

科目名	I B 教育課程論 (FP13T210)
英文科目名	Curriculum processes in IB
担当教員名	眞砂和典 (まさごかずのり), 高木志保 (たかぎしほ), ダッタシャミ* (だったしゃみ*)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション http://www.ibo.org/ IB0のホームページを散歩し、IBの4つのプログラム (PYP、MYP、DP、CP) について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
2 回	日本の教育改革とIBについて学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
3 回	IBDPカリキュラムの枠組み (原理、構成と実践)について学習する。 (ダッタ シャミ*)
4 回	6つの学習領域の相互作用とそれを結ぶ3つのコアについて学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
5 回	3つのコアとSGH (スーパーグローバルハイスクール) について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
6 回	知識を獲得するだけではなく、知識を学び、活用し、評価することが重要になる現代グローバル社会について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
7 回	これからの教育に関するプレゼンテーションを学生が実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
8 回	まとめと最終評価試験を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)

回数	準備学習
1 回	http://www.ibo.org/ IB0のホームページを事前に散歩し、各自が何か気付いたこと、興味を持ったことをクラスで紹介できるように準備すること。What is an IB education? [3 MB] 『国際バカロレア (IB) の教育とは?』 [2.3 MB] を読んでおくこと。
2 回	2020年に向けての日本の教育改革について調べ、どこに共感し、どこに問題を感じるかをまとめておくこと。300字のレポートにしてポートフォリオに保存する。(60分)
3 回	10 reasons why the IB Diploma Programme is ideal preparation for university [170 KB] 『IBが大学準備課程として優れている10の理由』 [162 KB] を読んでおくこと。(60分)
4 回	6つの学習領域は多すぎるのか、少なすぎるのか、自分の高校での学習や受験と比較して意見をまとめておくこと。300字のレポートにしてポートフォリオに保存する。(60分)
5 回	TOK、CAS、EEについて復習し、それぞれ200字でまとめておくこと。600字のレポートにしてポートフォリオに保存する。(60分)
6 回	Programme standards and practices 『プログラムの基準と実践要綱』 [1.4 MB] のp25 - 32を読んでおくこと。(60分)
7 回	これからの若者に必要とされる教育についてのプレゼンテーションの準備をしておくこと。発表の要旨を800字のレポートにまとめてポートフォリオに保存する。(60分)
8 回	これまでのまとめをして最終試験に備えておくこと。

講義目的	・ 国際的な教育、IBプログラムの役割と哲学 ・ IBのカリキュラムの枠組み (原理、構成と実践) ・ カリキュラムと教授法デザイン ・ カリキュラム上での表現
------	---

	Curriculum articulationを理解し、自分自身の言葉で説明できるようになる。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与するとともにプログラム終了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	・教える力、学ぶ力を高めること・コミュニケーション力を育成すること・内省や専門的学習・研究をサポートする力を理解し、修得する。
キーワード	学習者中心、3つのコア、6つの学習領域、HL、SL
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(30%)、レポート課題提出(40%)、発表会のプレゼンテーション(30%)。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	IB教員養成科目は 国際バカロレア概論 2単位 から始まり、2018年度 (この科目 IB 教育課程論 1単位)、IB教育方法論 1単位2019年度 IB 教育評価論 2単位、DP数学 2単位、DP化学 2単位2020年度 DP教育実践研究 2単位、DP教育実践研究 2単位と順次開講されていく予定である。
教科書	使用しない。
参考書	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm Resources for schools in Japan http://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/What is an IB education? [3 MB] 『国際バカロレア (IB) の教育とは?』 [2.3 MB] Programme standards and practices 『プログラムの基準と実践要綱』 [1.4 MB] 10 reasons why the IB Diploma Programme is ideal preparation for university [170 KB] 『IBが大学準備課程として優れている10の理由』 [162 KB] など、ほかにも授業で紹介してゆく。
連絡先	masago@ped.ous.ac.jp グローバル教育センター (C1号館4階) 眞砂和典 (研究室 C7号館2階)
注意・備考	この授業は多くの場合、学生中心のアクティブラーニングによって学びを深めるので、主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる
試験実施	実施する

科目名	I B 教育方法論 (FP13Y210)
英文科目名	Teaching and Learning in IB
担当教員名	眞砂和典 (まさごかずのり), 高木志保 (たかぎしほ), ダッタシャミ* (だったしゃみ*)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 学習者中心とは? 協働学習はどのように有効かを体験する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
2 回	IBでは「教える側が絶えず学ぶ」というプロセスを大切にしている。IB自体が固定されたものではなく、ワークショップなどを通してみんなで常に新しい教育を作り上げていくということを学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
3 回	History Teacher Support Materials –(first examinations 2017)「歴史」教師用参考資料2017年 第1回試験 pdf [1.8MB] からIBではなぜこのような歴史の学び方をするのか議論する。 (ダッタ シャミ*)
4 回	授業とその評価、ルーブリック評価の使い方について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
5 回	学生による模擬授業とその評価 を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
6 回	学生による模擬授業とその評価 を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
7 回	学生による模擬授業とその評価 を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
8 回	これまでのまとめをする。 (眞砂 和典, 高木 志保)

回数	準備学習
1 回	インターネットで探せばわかりやすい授業が見つかるような時代に学校の役割はどのように変わっていくのかを考えておくこと。Towards a continuum of international education 一貫した国際教育に向けて pdf [1.4 MB] P 13からP19 「指導」と「学習」 を読んでおくこと。(60分)
2 回	「教科書通りに授業を進めることはプログラムの理念と矛盾する。」ということはあなたの経験からどのように感じられるか? 初回の授業を受けて、協働学習の可能性や新しい方法の開発について300字くらいのレポートを書き、ポートフォリオに記録すること。(60分)
3 回	History Teacher Support Materials –(first examinations 2017)「歴史」教師用参考資料2017年 第1回試験 pdf [1.8MB] を読み、なぜこのような歴史の学び方をするのかについて300字のレポートを書き、ポートフォリオに記録すること。(60分)
4 回	模擬授業の準備各自の専門分野で新しい授業を計画し、各自、授業プランをまとめてポートフォリオに記録しておくこと。(60分)
5 回	模擬授業の準備をしておくこと。(60分)
6 回	模擬授業の準備をしておくこと。(60分)
7 回	模擬授業の準備をしておくこと。(60分)
8 回	これまでの授業の振り返りをしておくこと。(60分)

講義目的	・ 学ぶための理論、方法そして様式・新しい指導法と学びを支えるという事・一人ひとりを大切にする指導・教え、学ぶための教材の策定と評価以上を理解し、修得する。(教養教育セ
------	--

	ンター単位認定方針のCにもっとも強く関与するとともにプログラム終了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	・教える力、学ぶ力を高めること・コミュニケーション力を育成すること・革新力・挑戦する気持ちを高めること・多様性・多様な視点・考え方を認めること・内省や専門的学習・研究をサポートする力をつけること
キーワード	「全人的」な教育、協働学習、構成主義、概念学習、批判的思考キー・コンピテンシー、学習の方法 IB 5 approaches to learning skills. 1. Thinking skills 2. Communications skills 3. Social skills 4. Self-management skills 5. Research skills 指導の方法 IB 6 approaches to teaching skills. 1. based on inquiry 2. focused on conceptual understanding 3. developed in local and global contexts 4. focused on effective teamwork and collaboration 5. differentiated to meet the needs of all learners 6. informed by formative and summative assessment.
成績評価（合格基準60	レポート課題提出(40%)、発表会のプレゼンテーション(60%)。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	IB教員養成科目は 国際バカロレア概論 2単位 から始まり、2018年度 IB 教育課程論 1単位、(この科目 IB教育方法論 1単位) 2019年度 IB 教育評価論 2単位、DP数学 2単位、DP化学 2単位2020年度 DP教育実践研究 2単位、DP教育実践研究 2単位と順次開講されていく予定である。
教科書	使用しない。
参考書	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm など授業で紹介してゆく。
連絡先	masago@ped.ous.ac.jpグローバル教育センター(C1号館4階) 眞砂和典(研究室 C7号館2階)
注意・備考	この授業は多くの場合、学生中心のアクティブラーニングによって学びを深めるので、主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる
試験実施	実施しない

科目名	I B 教育方法論 (FP14T210)
英文科目名	Teaching and Learning in IB
担当教員名	眞砂和典 (まさごかずのり), 高木志保 (たかぎしほ), ダッタシャミ* (だったしゃみ*)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 学習者中心とは? 協働学習はどのように有効かを体験する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
2 回	IBでは「教える側が絶えず学ぶ」というプロセスを大切にしている。IB自体が固定されたものではなく、ワークショップなどを通してみんなで常に新しい教育を作り上げていくということを学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
3 回	History Teacher Support Materials –(first examinations 2017)「歴史」教師用参考資料2017年 第1回試験 pdf [1.8MB] からIBではなぜこのような歴史の学び方をするのか議論する。 (ダッタ シャミ*)
4 回	授業とその評価、ルーブリック評価の使い方について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
5 回	学生による模擬授業とその評価 を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
6 回	学生による模擬授業とその評価 を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
7 回	学生による模擬授業とその評価 を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
8 回	これまでのまとめをする。 (眞砂 和典, 高木 志保)

回数	準備学習
1 回	インターネットで探せばわかりやすい授業が見つかるような時代に学校の役割はどのように変わっていくのかを考えておくこと。Towards a continuum of international education 一貫した国際教育に向けて pdf [1.4 MB] P 13からP19 「指導」と「学習」 を読んでおくこと。(60分)
2 回	「教科書通りに授業を進めることはプログラムの理念と矛盾する。」ということはあなたの経験からどのように感じられるか? 初回の授業を受けて、協働学習の可能性や新しい方法の開発について300字くらいのレポートを書き、ポートフォリオに記録すること。(60分)
3 回	History Teacher Support Materials –(first examinations 2017)「歴史」教師用参考資料2017年 第1回試験 pdf [1.8MB] を読み、なぜこのような歴史の学び方をするのかについて300字のレポートを書き、ポートフォリオに記録すること。(60分)
4 回	模擬授業の準備各自の専門分野で新しい授業を計画し、各自、授業プランをまとめてポートフォリオに記録しておくこと。(60分)
5 回	模擬授業の準備をしておくこと。(60分)
6 回	模擬授業の準備をしておくこと。(60分)
7 回	模擬授業の準備をしておくこと。(60分)
8 回	これまでの授業の振り返りをしておくこと。(60分)

講義目的	・ 学ぶための理論、方法そして様式・新しい指導法と学びを支えるという事・一人ひとりを大切にする指導・教え、学ぶための教材の策定と評価以上を理解し、修得する。(教養教育セ
------	--

	ンター単位認定方針のCにもっとも強く関与するとともにプログラム終了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	・教える力、学ぶ力を高めること・コミュニケーション力を育成すること・革新力・挑戦する気持ちを高めること・多様性・多様な視点・考え方を認めること・内省や専門的学習・研究をサポートする力をつけること
キーワード	「全人的」な教育、協働学習、構成主義、概念学習、批判的思考キー・コンピテンシー、学習の方法 IB 5 approaches to learning skills. 1. Thinking skills 2. Communications skills 3. Social skills 4. Self-management skills 5. Research skills 指導の方法 IB 6 approaches to teaching skills. 1. based on inquiry 2. focused on conceptual understanding 3. developed in local and global contexts 4. focused on effective teamwork and collaboration 5. differentiated to meet the needs of all learners 6. informed by formative and summative assessment.
成績評価（合格基準60	レポート課題提出(40%)、発表会のプレゼンテーション(60%)。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	IB教員養成科目は 国際バカロレア概論 2単位 から始まり、2018年度 IB 教育課程論 1単位、(この科目 IB教育方法論 1単位) 2019年度 IB 教育評価論 2単位、DP数学 2単位、DP化学 2単位2020年度 DP教育実践研究 2単位、DP教育実践研究 2単位と順次開講されていく予定である。
教科書	使用しない。
参考書	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm など授業で紹介してゆく。
連絡先	masago@ped.ous.ac.jpグローバル教育センター(C1号館4階) 眞砂和典(研究室 C7号館2階)
注意・備考	この授業は多くの場合、学生中心のアクティブラーニングによって学びを深めるので、主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる
試験実施	実施しない

科目名	I B 教育課程論 (FP14Y210)
英文科目名	Curriculum processes in IB
担当教員名	眞砂和典 (まさごかずのり), 高木志保 (たかぎしほ), ダッタシャミ* (だったしゃみ*)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション http://www.ibo.org/ IB0のホームページを散歩し、IBの4つのプログラム (PYP、MYP、DP、CP) について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
2 回	日本の教育改革とIBについて学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
3 回	IBDPカリキュラムの枠組み (原理、構成と実践)について学習する。 (ダッタ シャミ*)
4 回	6つの学習領域の相互作用とそれを結ぶ3つのコアについて学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
5 回	3つのコアとSGH (スーパーグローバルハイスクール) について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
6 回	知識を獲得するだけではなく、知識を学び、活用し、評価することが重要になる現代グローバル社会について学習する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
7 回	これからの教育に関するプレゼンテーションを学生が実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)
8 回	まとめと最終評価試験を実施する。 (眞砂 和典, 高木 志保)

回数	準備学習
1 回	http://www.ibo.org/ IB0のホームページを事前に散歩し、各自が何か気付いたこと、興味を持ったことをクラスで紹介できるように準備すること。What is an IB education? [3 MB] 『国際バカロレア (IB) の教育とは?』 [2.3 MB] を読んでおくこと。
2 回	2020年に向けての日本の教育改革について調べ、どこに共感し、どこに問題を感じるかをまとめておくこと。300字のレポートにしてポートフォリオに保存する。(60分)
3 回	10 reasons why the IB Diploma Programme is ideal preparation for university [170 KB] 『IBが大学準備課程として優れている10の理由』 [162 KB] を読んでおくこと。(60分)
4 回	6つの学習領域は多すぎるのか、少なすぎるのか、自分の高校での学習や受験と比較して意見をまとめておくこと。300字のレポートにしてポートフォリオに保存する。(60分)
5 回	TOK、CAS、EEについて復習し、それぞれ200字でまとめておくこと。600字のレポートにしてポートフォリオに保存する。(60分)
6 回	Programme standards and practices 『プログラムの基準と実践要綱』 [1.4 MB] のp25 - 32を読んでおくこと。(60分)
7 回	これからの若者に必要とされる教育についてのプレゼンテーションの準備をしておくこと。発表の要旨を800字のレポートにまとめてポートフォリオに保存する。(60分)
8 回	これまでのまとめをして最終試験に備えておくこと。

講義目的	・ 国際的な教育、IBプログラムの役割と哲学 ・ IBのカリキュラムの枠組み (原理、構成と実践) ・ カリキュラムと教授法デザイン ・ カリキュラム上での表現
------	---

	Curriculum articulationを理解し、自分自身の言葉で説明できるようになる。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与するとともにプログラム終了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	・教える力、学ぶ力を高めること・コミュニケーション力を育成すること・内省や専門的学習・研究をサポートする力を理解し、修得する。
キーワード	学習者中心、3つのコア、6つの学習領域、HL、SL
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(30%)、レポート課題提出(40%)、発表会のプレゼンテーション(30%)。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	IB教員養成科目は 国際バカロレア概論 2単位 から始まり、2018年度 (この科目 IB 教育課程論 1単位)、IB教育方法論 1単位2019年度 IB 教育評価論 2単位、DP数学 2単位、DP化学 2単位2020年度 DP教育実践研究 2単位、DP教育実践研究 2単位と順次開講されていく予定である。
教科書	使用しない。
参考書	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm Resources for schools in Japan http://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/What is an IB education? [3 MB] 『国際バカロレア (IB) の教育とは?』 [2.3 MB] Programme standards and practices 『プログラムの基準と実践要綱』 [1.4 MB] 10 reasons why the IB Diploma Programme is ideal preparation for university [170 KB] 『IBが大学準備課程として優れている10の理由』 [162 KB] など、ほかにも授業で紹介してゆく。
連絡先	masago@ped.ous.ac.jp グローバル教育センター (C1号館4階) 眞砂和典 (研究室 C7号館2階)
注意・備考	この授業は多くの場合、学生中心のアクティブラーニングによって学びを深めるので、主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる
試験実施	実施する